



国民春闘共闘

2025年度 第2号
2024年 11月 12日

国民春闘共闘委員会
〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

24年・第1回年末一時金集計

生活改善には及ばない回答水準

国民春闘共闘委員会（全労連、純中立労組懇、地方共闘などで構成）は11月7日、2024年度第1回目の年末一時金集計を行いました。

<回答状況>

	2024年	2023年同期
回答引き出し組合	417	429
うち 妥結組合	145(34.8%)	131(30.5%)

<要求と回答内容>

集計方法&対象		2024年回答	23年同期	同期比	23年最終
単純平均	月数	1.96	1.95	0.01	2.04
	額(円)	590,865	600,693	-9,828	595,147
加重平均	額(円)	570,743	588,836	-18,093	656,163
	組合員数	62,425	69,034		183,796

<前年実績との比較が可能な組合における金額・率の比較>

		組合数	前年実績以上	前年実績超	24年回答	23年実績	実績比
単純平均	月数	325	221(68.0%)	97(29.9%)	1.94	1.98	-0.04
	金額	269	157(58.4%)	136(50.6%)	592,204	592,114	90

<非正規の仲間の回答状況>

		時給制	月給制	再雇用・時給制	再雇用・月給制
単純平均	月数	0.775	1.393	0.681	1.047
	前年同期	0.860	1.324	1.113	0.923
	前年最終	0.904	1.271	0.768	1.089
	額(円)	88,007	316,706	182,248	238,457
	前年同期	89,801	328,701	106,061	304,295
	前年最終	64,781	201,322	104,647	125,203

※額または率のみの報告があるため、双方は連動しません。

※言葉による回答は平均などの計算から除いています。

<集計結果の概要>

回答引き出し・妥結状況

11月7日に実施した2024年の年末一時金第1回集計には、別表の17単産・部会から回答報告が寄せられました（前年同期2023年11月9日：19単産・部会）。回答引出し組合は1509組合のうち417組合（27.6%）で、前年同期429組合（26.5%）を1.1割上回っています。

春闘・夏季闘争での交渉も含めて、回答引出し組合の34.8%にあたる145組合が妥結・收拾方向となっています。前年同期の131組合（30.5%）と比べ4.3割増加しています。

回答内容

回答月数が判明している373組合での単純平均（一組合あたりの平均）は1.96ヵ月で、前年同期1.95ヵ月とほぼ同水準です。前年最終集計（2023年12月14日）と比べると0.08ヵ月減となっています。

金額回答のあった298組合での単純平均額は590,865円で前年同期比マイナス9,828円、加重平均額（組合員一人あたりの平均）は570,743円と前年同期比マイナス18,093円となりました。

単純平均で前年実績比較可能な組合を見ると、月数では325組合の単純平均で今期は1.94ヵ月と前年実績1.98ヵ月を0.04ヵ月下回っています。金額では269組合の単純平均で592,204円と前年実績592,114円と同水準となっています。

全体としては、春闘での賃上げが一定あったにも関わらず前年を下回る厳しい回答状況となっています。物価高騰の中、生活改善には及ばない水準となっており、一時金を調整弁として春闘での賃上げ分を抑え込もうとしている経営側の姿勢が伺えます。

産業別に回答月数を見ると、製造、運輸・通信、マスコミ関係、その他サービスで単純平均2ヵ月以上となっている一方で、卸売・小売、医療、社会福祉・介護では2ヵ月を下回っています。医療では前年実績比較可能組合でマイナス41,887円・9.01%減となっています。

JMITU や日本医労連の職場でストライキに突入するなど、粘り強い交渉が続けられており、今後の動向を注視していく必要があります。

パートやアルバイトなど非正規雇用で働く仲間の一時金

非正規雇用で働く仲間の一時金は、別表の5単産92組合から171件の獲得報告が寄せられています。

このうち、パート、アルバイトなど時給制労働者の一時金獲得は、日本医労連50件、生協労連42件など計95件となっています。月数報告のあった78件での単純平均は0.775ヵ月で、前年同期0.86ヵ月（69件）、前年最終集計0.904ヵ月を下回っています。また、金額報告のあった20件の単純平均は88,077円で、前年同期89,801円（23件）は下回っていますが、前年最終64,781円（68件）を23,296円上回っています。前年実績比較可能は19件の平均では前年実績と同水準です。

臨時、契約などの月給制労働者では52件の獲得報告が寄せられ、単純平均1.393ヵ月（43件）、316,706円（16件）です。

継続雇用者では、時給制労働者は9件の獲得で、単純平均0.681ヵ月（9件）、182,248円（2件）となっています。月給制の継続雇用者は生協労連、全印総連、日本医労連から計15件の獲

得報告が寄せられ単純平均 1.047 ヲ月 (10 件)、238,457 円 (6 件) となっています。

物価高騰が続く中、各組織が奮闘しているものの非正規雇用で働く仲間の一時金の獲得、水準は十分とは言えません。すべての労働者への一時金支給、大幅引上げを実現させるために、交渉を一段と強めていくことが求められます。